



にしはら

1月号

渋谷区立西原小学校

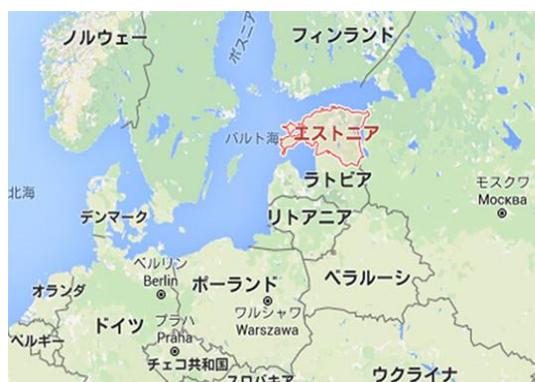
創造性とデジタルに富んだ「エストニア共和国」から学ぶ

校長 博多 正勝

昨年は保護者及び地域の皆様には、西原小学校の子供たちのために、多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年が皆様にとって素晴らしい年になりますよう、お祈り申し上げます。

1月からの3か月間は、今年度のまとめでもあり、成果と課題を確認する時期でもあります。昨年の12月に学校評価（教育活動アンケート）をお願いしました。多くのお褒めの言葉、改善依頼の言葉をいただきました。成人の日の13日（月）までに締め切りを延長いたしますので、お手数とは思いますが、アンケートが未回答の方は回答のほどお願いいたします。詳しくまとめたものを3月初旬までにはお伝えいたします。

さて、新年最初の話は、ある欧州の小国についてです。



OECD加盟国（37か国）における比較

■は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド*	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ*	515
5	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
6	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
7	アイルランド*	492	ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイルランド*	504
9	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
10	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
		OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均
		信頼区間（日本）	530-541	信頼区間（日本）	510-522	信頼区間（日本）
						541-552

左の地図で赤い枠の国が「エストニア共和国」と言います。南の「ラトビア」「リトアニア」を合わせて「バルト三国」という名称はお聞きになられた方も多いと思います。面積は九州よりやや大きく、人口も約130万人で、日本と比べるとかなり小国です。実際、1991年まではソビエト連邦の領土でした。ソビエト連邦からの独立後、急速に発展してきた国です。右のグラフですが、「PISA調査」といって、世界主要81か国が参加している世界的な学力調査の結果です。主に15歳の生徒が受験（日本では183校の中学生3年生、6000名が参加）をします。内容は「数学的リテラシー」「読解力」「科学的リテラシー」3つで、2000年以降、3年ごとに行われています。右のグラフ（2022年）での日本の結果ですが、OECD加盟国中「数学的リテラシー」は1位。「読解力」は2位。「科学的リテラシー」は1位と、以前より順位が向上しています。その日本と大きく差が無く、3項目とも上位に「エストニア共和国」が入っています。以前、PISA調査で好結果だったフィンランド共和国は低下が見られます。ただ、フィンランドとエストニアはとても近い距離にあります。

そのエストニアですが、行政サービスの99%がオンラインで行えるという世界有数の「デジタル国家」です（選挙投票もオンラインです）。同時に教育のデジタル化も以前よりとても進んでおり、日本とエストニアが2022年のPISA調査の結果が以前より向上した理由に、新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖が、他国より早く終了したからと言われています。日本はコロナ禍がきっかけで、教育のデジタル化が急速に広まりましたが、エストニアは日本よりもかなり前から、教育のICT化に取り組んでいました。ただ、エストニアの教育は、デジタル化だけではなく、「創造性」をとても大事にしています。具体的には、エストニアは「アントレプレナーシップ」（起業家精神を育むこと）教育を柱としており、常に新しい発想を大切にしているようです。「人口当たりの企業率」EU（欧州連合）1位とも言われています。オンラインチャットの先駆けであった「Skype（スカイプ）」はエストニアの企業が開発しました。エストニアは、社会の変化を掴み、イノベーションを起こせる人材の育成を学校教育の重要項目として位置付け、それを後押しできるデジタル環境に取り組んでいます。具体的には、小中学校においては、ディスカッションやグループワークが多用される「児童生徒中心型学習」が基本のようで、一単位時間で教師が話す時間が半分よりも少ないと言われています。考えさせられますね。

これからの時代を担う子供たちには、指示を待つだけではなく、好奇心を持ち、自ら課題を見付け、考え、自ら行動に移すことのできる力が求められています。やはり、渋谷区の施策「探究シブヤ未来科」と「ICT教育」の更なる推進が、力となります。本校としては、2月末の土曜公開では、「マイ探究（3年生以上）」の成果等を報告予定です。ICT活用も踏まえ見ていただければと思います。今年もご理解、ご協力のほどお願いいたします。

*PISA2022のポイント 文部科学省 https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

*エストニアとは - 宇陀市公式ホームページ（政策推進課） *エストニアの教育システム https://www.jeeads.jp/uploads/4/8/2/148216873/jeeads_estonia.education_20231219.pdf